

プロセス① 都市づくりの視点で課題(大項目)を再整理(組み換え)

都市マスの全体構想では分野別に都市整備の方針を整理していくことになるため、全体構想に繋がるように都市づくりの視点で課題内容を再整理

Table with 2 columns and 3 rows listing urban planning perspectives: 1. Land Use, 2. Point Development, 3. Road/Transport/Network, 4. Living Environment, 5. Nature/History/Culture, 6. Disaster/Reduction.

プロセス② 都市づくりの視点で課題(小項目)を再整理(組み換え)

組み換え後の課題(大項目)に合わせ、課題(小項目)を再整理

都市づくりの課題(現計画)

課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
(2)森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
(3)安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
(4)計画的な市街地整備の誘導を図るとともに、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
(5)低炭素都市づくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組

課題②魅力や個性を発揮し、まちの賑わいの再生・創出

- (1)肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
(2)大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
(3)自然景観の保全など、田園環境を生かしたまちづくり
(4)都市の生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能や地域のコミュニティなど、都市を支える機能の向上
(5)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大など、多様化する都市開発に対し、地区特性を生かしたまちづくり方針の策定

課題③高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (1)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開通による充実した高速交通体系を生かした多様な産業・交流の促進
(2)地域交流、都市間交流、国際交流を通じて、都市の付加価値の向上
(3)地理的特性や高速交通体系の利便性を生かし、県の産業機能の中核を担う都市づくり
(4)地区の特性を生かし、それぞれの連携を図ることによる、新たな活力の創出
(5)行政主導の都市づくりから、地域住民をはじめNPO等新たな活動主体との協働によるまちづくりへの展開

課題④コンパクトシティの概念に基づく都市構造の再編

- (1)経済、業務、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
(2)国や県の土地利用方針を踏まえ、コンパクトな都市づくりに向けた都市構造の再編及び計画的な土地利用の規制・誘導
(3)少子高齢社会、高齢者に優しい都市づくりなど、都市を取り巻く社会・経済の変化に対応した、土地利用の規制・誘導や都市施設の整備
(4)コンパクトな都市構造の再編と連携した公共交通計画の策定など総合的な視点からの都市づくり
(5)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
(6)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり

課題⑤住まい環境や都市施設の計画的な整備

- (1)これまでに形成された良好な都市環境を保全し、住む場としての個性を発揮
(2)県の中心的な居住の場として、大村市の特性である良好な住環境による定住拠点の形成
(3)道路の未整備区間の存在や公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
(4)災害に強い都市、安全・安心な都市環境の形成、医療・福祉機能の充実など、住まいを支える付加価値の向上
(5)歩行者が快適に通行できる交通環境の整備、高齢者の移動手段の確保、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくりなど、人に優しい都市環境の充実
(6)若年層の流出の抑制や都市活動を支える雇用の場の創出、安心して子どもを育てることのできる快適な都市づくり

審議用の資料であり、確定案ではありません。

視点①: 土地利用

課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
(4)計画的な市街地整備の誘導を図るとともに、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
(2)国や県の土地利用方針を踏まえ、コンパクトな都市づくりに向けた都市構造の再編及び計画的な土地利用の規制・誘導
(3)少子高齢社会、高齢者に優しい都市づくりなど、都市を取り巻く社会・経済の変化に対応した、土地利用の規制・誘導や都市施設の整備

視点②: 拠点整備

NEW 課題②市民生活や地域経済を支える多様な拠点の形成

- (1)経済、業務、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
(3)地理的特性や高速交通体系の利便性を生かし、県の産業機能の中核を担う都市づくり
(5)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大など、多様化する都市開発に対し、地区特性を生かしたまちづくり方針の策定
(4)地区の特性を生かし、それぞれの連携を図ることによる、新たな活力の創出

視点③: 道路・交通・ネットワーク

課題③高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (5)行政主導の都市づくりから、地域住民をはじめNPO等新たな活動主体との協働によるまちづくりへの展開
(1)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開通による充実した高速交通体系を生かした多様な産業・交流の促進
(2)地域交流、都市間交流、国際交流を通じて、都市の付加価値の向上
(4)コンパクトな都市構造の再編と連携した公共交通計画の策定など総合的な視点からの都市づくり
(5)歩行者が快適に通行できる交通環境の整備、高齢者の移動手段の確保、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくりなど、人に優しい都市環境の充実

視点④: 居住環境

課題④住まい環境や都市施設の計画的な整備

- (5)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
(6)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり
(1)これまでに形成された良好な都市環境を保全し、住む場としての個性を発揮
(2)県の中心的な居住の場として、大村市の特性である良好な住環境による定住拠点の形成
(4)都市の生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能や地域のコミュニティなど、都市を支える機能の向上
(3)道路の未整備区間の存在や公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
(4)医療・福祉機能の充実など、住まいを支える付加価値の向上
(6)若年層の流出の抑制や都市活動を支える雇用の場の創出、安心して子どもを育てることのできる快適な都市づくり

視点⑤: 自然・歴史・文化

NEW 課題⑤自然環境や歴史・文化の保全・活用

- (2)森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
(3)安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
(5)低炭素都市づくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組
(1)肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
(2)大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
(3)自然景観の保全など、田園環境を生かしたまちづくり

視点⑥: 防災・減災

NEW 課題⑥自然災害に対する安全性の確保

- (4)災害に強い都市、安全・安心な都市環境の形成

見直しのポイント

プロセス③ 課題(小項目)の記載内容を検討

・都市を取り巻く環境の変化や課題見直しの留意点を踏まえ、課題(小項目)の内容を検討
 (a)現計画を踏襲するもの (b)現計画の表現を見直すもの (c)新たに追加するもの

審議用の資料であり、確定案ではありません。

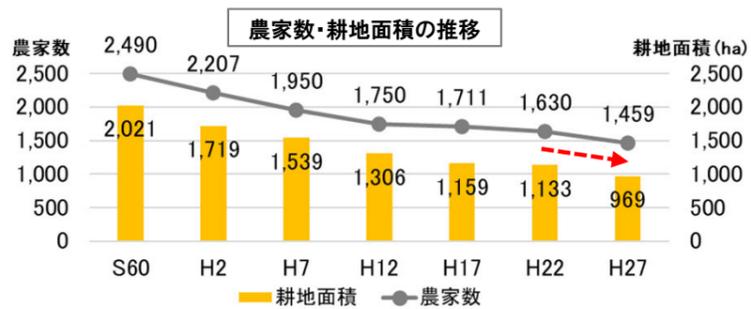
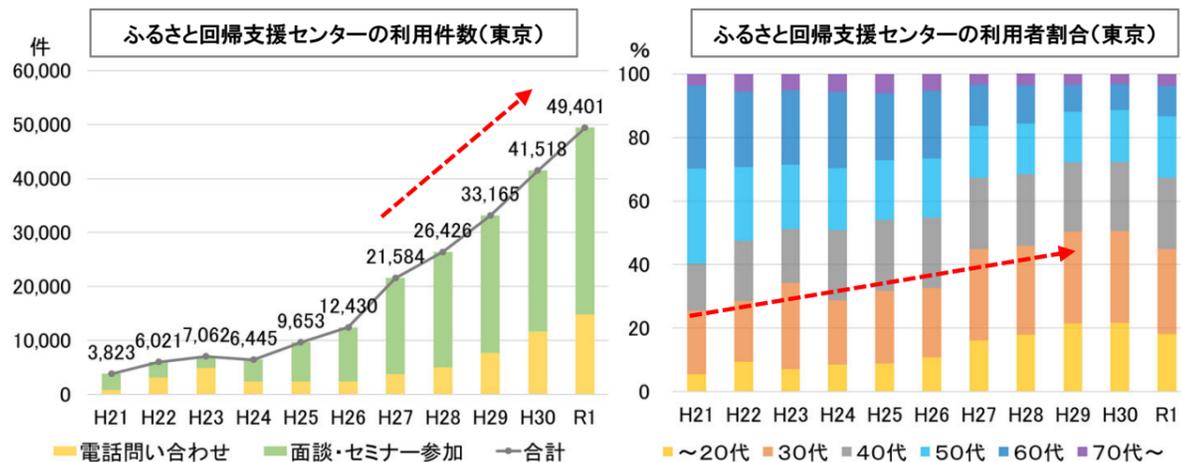
都市づくりの課題の再整理(組み換え後)

視点①：土地利用

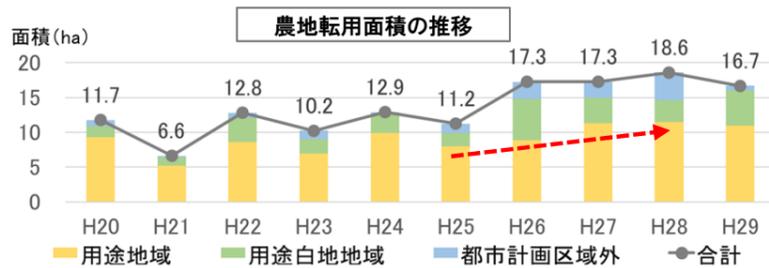
課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
- (2)計画的な市街地整備の誘導を図るとともに、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
- (3)国や県の土地利用方針を踏まえ、コンパクトな都市づくりに向けた都市構造の再編及び計画的な土地利用の規制・誘導
- (4)少子高齢社会、高齢者に優しい都市づくりなど、都市を取り巻く社会・経済の変化に対応した、土地利用の規制・誘導や都市施設の整備

- 都市部から地方への移住志向が拡大
- 都市農地に係る法制度の改正・創設の動きが活発化し、都市農地の価値を見直す動きが拡大
- 農家数・耕地面積が減少傾向、用途地域内外ともに農地転用が増加
- H24～H29にかけて94haの田畑が住宅地、道路用地、その他空地等の都市的土地利用へ転用
 ⇒地方への移住志向や都市農地の再評価などの社会動向や、本市における農地の減少・転用傾向から、都市農地の保全・活用



- 【法制度の改正・創設】**
- ・都市農業振興基本法制定(H27)
 - ・田園住居地域創設(H29)
 - ・生産緑地制度改正(H29)
 - ・農と住の調和したまちづくりの推進のための特例措置(R2)



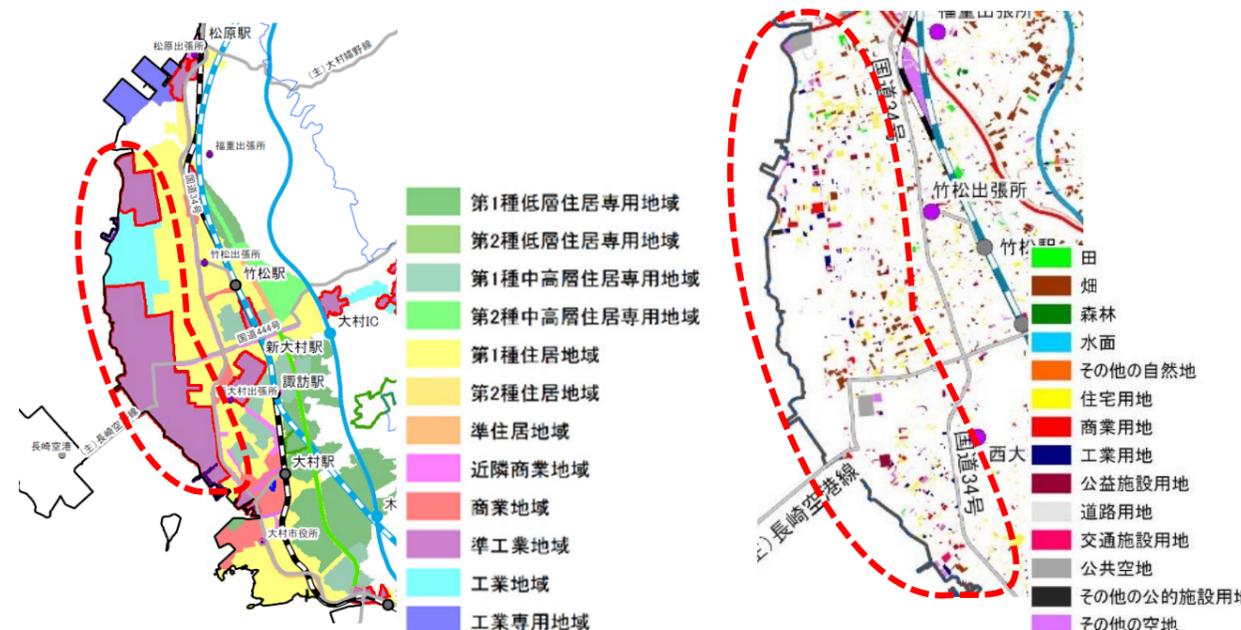
都市づくりの課題(見直し案)

視点①：土地利用

課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
- (2)計画的な市街地整備の誘導と、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
- (3)少子高齢化社会を見据えた、都市の利便性や活力を維持していくためのコンパクトな都市づくり
- (4)都市農地の保全と多様な機能の発揮
- (5)住宅や商業施設の開発がみられる沿岸部の工業・準工業地域における住環境・操業環境の調和

- 沿岸部の工業・準工業地域では住宅や商業施設の開発による用途混在化が進展
- 「工場などの混在による悪臭や騒音のない快適性」に対する高い重要度(P9)
 ⇒沿岸部の工業・準工業地域における計画的土地利用、住環境・操業環境の調和の重要性が増大



お住いの地区の今後の取り組みに対する重要度(市民アンケート)

項目	1	2	3	4	5
お住まいの環境	1.日当たりや見晴らしのよさ (3.57)				
	2.工場などの混在による悪臭や騒音のない快適性 (3.80)				
	3.密集した住宅などの火災に対する安全性 (3.75)				
	4.街並みの美しさ (3.55)				
快適性や利便性	5.自然・緑・水辺の豊かさ、美しさ (3.71)				
	6.日常の買い物の利便性 (3.81)				
	7.遊び・レジャー施設の充実度 (3.31)				
	8.働く場所の充実度 (3.43)				

重要度平均: 3.58

【重要度】
 ・高い = 5
 ・やや高い = 4
 ・普通 = 3
 ・やや低い = 2
 ・低い = 1

プロセス③ 課題(小項目)の記載内容を検討

・都市を取り巻く環境の変化や課題見直しの留意点を踏まえ、課題(小項目)の内容を検討
(a)現計画を踏襲するもの (b)現計画の表現を見直すもの (c)新たに追加するもの

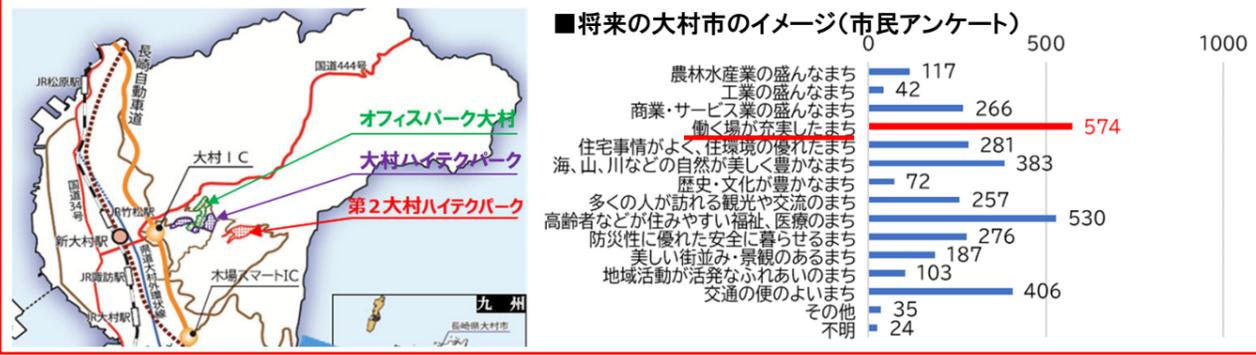
都市づくりの課題の再整理(組み換え後)

視点②：拠点整備

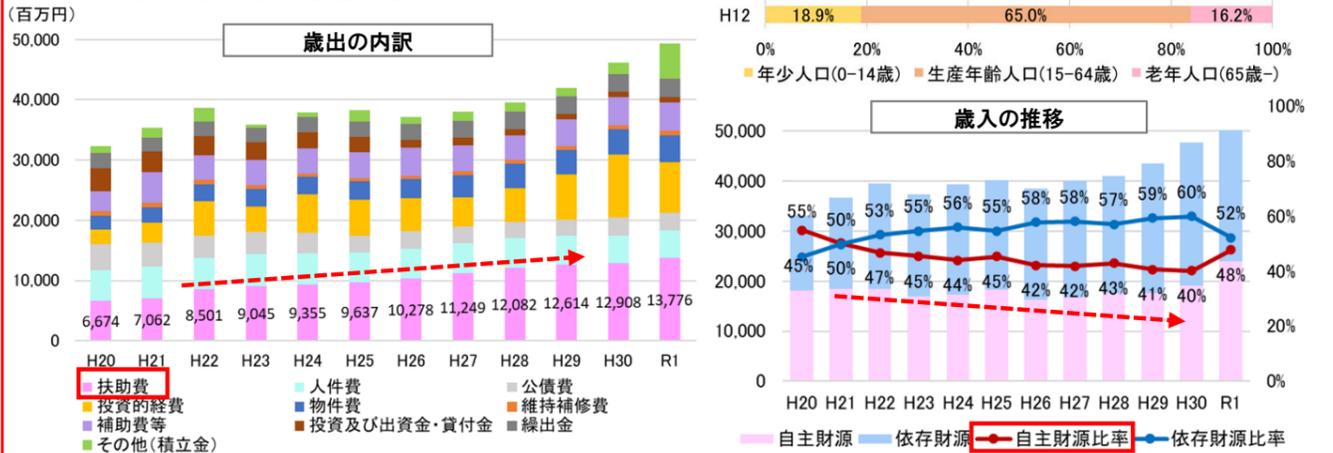
課題②市民生活や地域経済を支える多様な拠点の形成

- (1)経済、業務、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
- (2)地理的特性や高速交通体系の利便性を生かし、県の産業機能の中核を担う都市づくり
- (3)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大など、多様化する都市開発に対し、地区特性を生かしたまちづくり方針の策定
- (4)地区の特性を生かし、それぞれの連携を図ることによる、新たな活力の創出

- 山間部の雄ヶ原町では、『大村ハイテクパーク』や『オフィスパーク大村』への企業誘致が完了し、自動車・半導体関連メーカー等が進出するなど、県下有数の高度技術集積地を形成
 - 雄ヶ原町の『第2大村ハイテクパーク』への企業誘致活動が活発化
 - 将来の大村市に対する「働く場が充実したまち」づくりへの市民意向 (P20)
- ⇒第2大村ハイテクパークへの更なる企業誘致による経済活性化・雇用創出



- 本市のR2年の総人口は、95,462人(H27国調に基づくR2.10の推計値)と、H27年国調に基づく社人研推計値より約1,500人を上回る
 - 年齢構成をみると、H22~27年にかけて65歳以上の割合が3.0%増加、14歳以下の割合が0.5%減少しており少子高齢化が進行
 - 社会保障関係費の増大により扶助費が増加傾向にあり、引き続き、少子高齢化の進行により社会保障関係費の増大や社会活力の低下が見込まれる
- ⇒高齢者が安心して暮らせる都市づくり、高齢者をはじめ多様な人材が活躍できる環境づくり



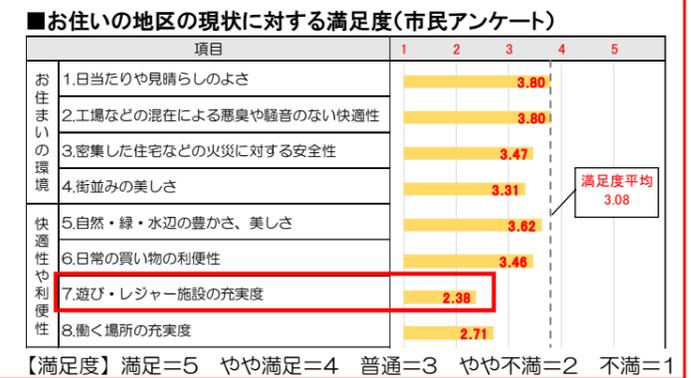
都市づくりの課題(見直し案)

視点②：拠点整備

課題②市民生活や地域経済を支える多様な拠点の形成

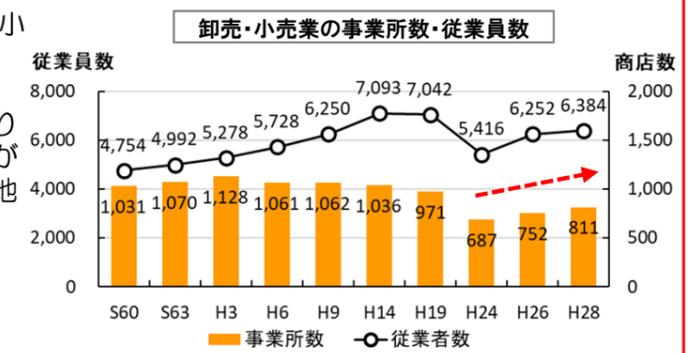
- (1)経済、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
- (2)工業団地を中心に、高速交通体系を生かした多様な産業の集積
- (3)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大などに対し地区の特性を生かした多様な拠点の形成と連携
- (4)空き店舗等の活用や商業等の更なる集積などによるまちの賑わい創出
- (5)子どもから高齢者、障がい者まで全ての人が健康で活動的に生活ができる環境づくり、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくり
- (6)新幹線開通に合わせた新大村駅と大村車両基地駅周辺の新たな拠点づくりと交流・関係人口の拡大に向けた受入環境整備

- 新幹線開業アクションプランでは、観光客等の「交流人口」、定期的に大村を訪れる「関係人口」を増やし、「定住人口」の増加へと繋げることを基本方針としている、その実現に向けて、拠点づくりや魅力の磨き上げ、魅力発信、利便性向上を推進
 - 「遊び・レジャー施設の充実度」に対する市民の低い満足度 (P8)
- ⇒新大村駅周辺における拠点づくりや魅力の磨き上げ、魅力発信、利便性向上を推進



- 既存都市拠点である大村駅周辺では、ミライonや、地域包括ケア拠点施設等の開館などその拠点性が高まる
 - 新大村駅周辺では、新たな都市拠点として、長崎大学・情報データ科学部の移転計画や、その他交流・賑わいの拠点整備を促進
- ⇒大村駅・新大村駅周辺の両拠点が一体的な機能を有していくこと

- H20リーマンショックの影響により卸売・小売業は落ち込みをみせたが、近年は事業所数・従業者数ともに増加傾向
 - 上駅通り地区第一種市街地再開発事業により「コレモおおむら」や「プラザおおむら」が整備され、更なる商業等の集積や中心市街地の形成が期待
- ⇒空き店舗等の活用による効率的な土地利用
⇒更なる商業等の集積や賑わいの創出が期待



プロセス③ 課題(小項目)の記載内容を検討

・都市を取り巻く環境の変化や課題見直しの留意点を踏まえ、課題(小項目)の内容を検討
(a)現計画を踏襲するもの (b)現計画の表現を見直すもの (c)新たに追加するもの

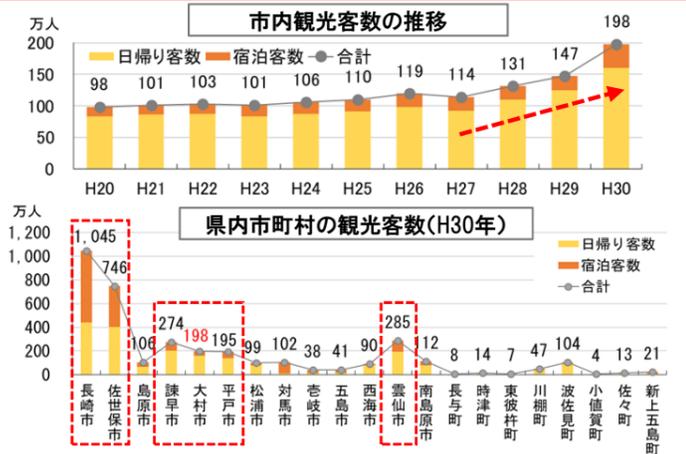
都市づくりの課題の再整理(組み換え後)

視点③：道路・交通・ネットワーク

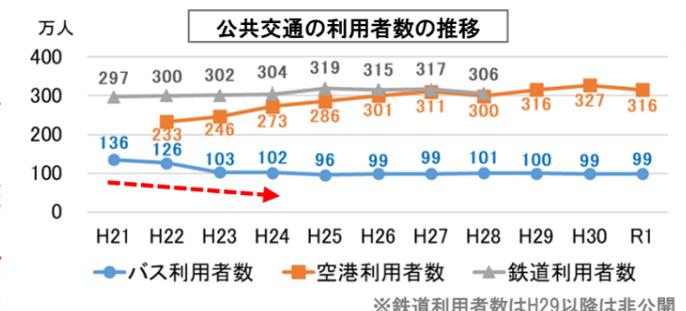
課題③ 高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (1)行政主導の都市づくりから、地域住民をはじめNPO等新たな活動主体との協働によるまちづくりへの展開
- (2)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開通による充実した高速交通体系を生かした多様な産業・交流の促進
- (3)地域交流、都市間交流、国際交流を通じて、都市の付加価値の向上
- (4)コンパクトな都市構造の再編と連携した公共交通計画の策定など総合的な視点からの都市づくり
- (5)歩行者が快適に通行できる交通環境の整備、高齢者の移動手段の確保、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくりなど、人に優しい都市環境の充実

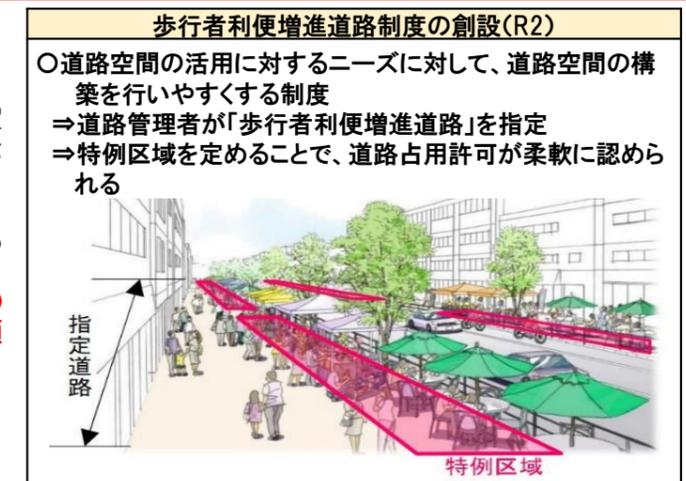
- 観光客は年間200万人近くまで増加しているが、依然として日帰り観光客が中心で観光消費に結びつきにくい状況
- 県内では長崎市・佐世保市への入込が多い状況、次いで、雲仙市・諫早市・大村市・平戸市への入込が多い
- より多くの人に訪れてもらうためには、新幹線ルート沿線市(武雄市・嬉野市・諫早市・長崎市等)との連携強化が重要
⇒更なる誘客と周遊・滞在の促進に向けて、沿線市との連携



- 空港やJRの利用者数が増加傾向にある一方、市内を走る県営バス13路線の利用者数は減少～横ばいで推移
- 郊外部や山間部等の交通空白地においてデマンド型乗合タクシーの運行開始
⇒長崎空港～新大村駅～大村ICを結ぶ高速交通体系を基軸に、中心拠点や生活拠点等を結ぶ公共交通軸の確立
⇒公共交通軸を中心とした幹線バスと支線バス、コミュニティバス等のネットワーク化



- 道路空間の活用が近年進められる中、令和2年5月の道路法改正により新たに「歩行者利便増進道路」制度が創設
- 感染症対策を行う飲食店支援のための暫定措置として、テイクアウトやテラス営業などのために、道路占用許可基準を緩和
- 今後も引き続き、道路空間・まちなかのオープンスペースの活用の動きが拡大すると予想される
⇒道路空間・まちなかのオープンスペースの活用による、まちなかの回遊性向上や快適で賑わいある歩行空間の創出



都市づくりの課題(見直し案)

視点③：道路・交通・ネットワーク

課題③ 高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (1)地域住民との協働によるまちづくり
- (2)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルートなどの高速交通体系を生かした地域間交流の促進及び、新幹線沿線地域との連携による広域観光周遊の促進
- (3)高速交通や、都市拠点、市街地から離れた地域や交通空白地などを含めた公共交通ネットワークを再構築し、高齢者をはじめとした交通弱者の日常生活における移動手段の確保
- (4)快適な歩行空間・交流空間の創出、まちなかの回遊性向上
- (5)自転車での移動が容易な本市の地形特性を生かしたまちづくり
- (6)市街地や大村～諫早間における交通渋滞の解消、輸送ルートの確保
- (7)Society 5.0時代の都市づくりに向けた、官民データの活用、IoTやAIなど新技術を活用した都市の課題解決

- SDGsの実現に向けて社会・経済・環境の3側面のアプローチによる持続可能な都市づくりの実現
- 感染症予防で行動範囲が狭まり身近な生活環境への重要性が注目
- H29年に自転車活用促進法が施行され、自転車活用の機運が高まる
- 低炭素な都市づくりや、健康・医療・福祉のまちづくりが必要
⇒「自転車の移動が容易であること」を強みとしたまちづくり

自転車活用促進法の施行(H29.5)

○身近な交通手段である自転車の活用による環境への負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図るため、自転車の活用の推進に関する施策の基本事項を定めた法律

<p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○政府 基本方針に即し、自転車活用促進計画を決定 ○県や市 区域の実情に応じ計画を定めるよう努める 	<p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用道路等の整備 ・路外駐車場の整備等 ・シェアサイクル施設の整備 ・国民の健康の保持増進 ・公共交通機関との連携の促進 ・自転車を活用した国際交流の促進 ・観光来訪の促進、地域活性化の支援等
---	---

- 国道34号、県道大村貝津線において混雑度が高い区間が存在し、混雑解消が必要
- 国道34号大村諫早拡幅や池田沖田線の延伸が予定されており交通渋滞の解消が期待
- 長崎空港や大村ICに加え、木場スマートICの開通、新大村駅や車両基地駅の開業により、高速交通の結節拠点としての重要性が増大
- 佐世保市～東彼杵町を結ぶ東彼杵道路も構想されており、道路整備による生活圏の拡大、経済の活性化が期待
⇒中心市街地や大村～諫早間における交通渋滞の解消、輸送ルートの確保



プロセス③ 課題(小項目)の記載内容を検討

・都市を取り巻く環境の変化や課題見直しの留意点を踏まえ、課題(小項目)の内容を検討
(a)現計画を踏襲するもの (b)現計画の表現を見直すもの (c)新たに追加するもの

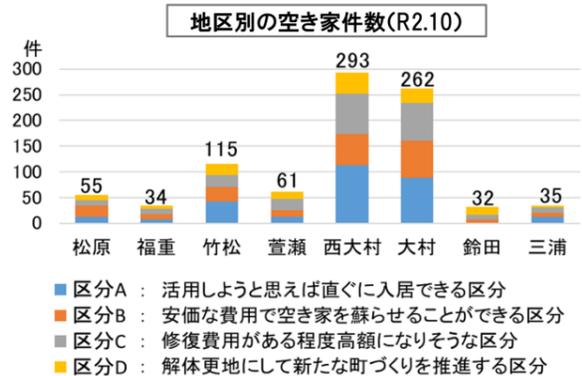
都市づくりの課題の再整理(組み換え後)

視点④：居住環境

課題④ 住まい環境や都市施設の計画的な整備

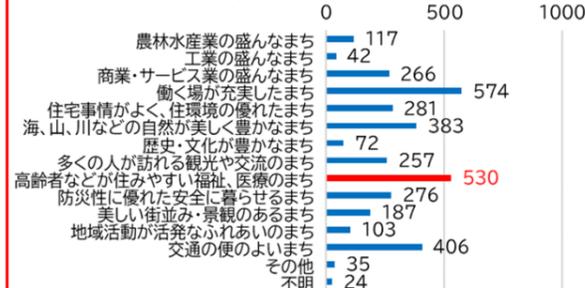
- (1)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
(2)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり
(3)これまでに形成された良好な都市環境を保全し、住む場としての個性を發揮
(4)県の中心的な居住の場として、大村市の特性である良好な住環境による定住拠点の形成
(5)都市の生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能や地域のコミュニティなど、都市を支える機能の向上
(6)道路の未整備区間の存在や公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
(7)医療・福祉機能の充実など、住まいを支える付加価値の向上
(8)若年層の流出の抑制や都市活動を支える雇用の場の創出、安心して子どもを生み育てることのできる快適な都市づくり

- 空き家が放置され続けることで、ゴミ投棄や火災の発生、周辺景観の阻害などが懸念
●働き方改革での多様な働き方の推進や、感染症対策における大都市一極集中のリスクの顕在化などに伴い、居住地選択の幅の広がりや、居住地に対するニーズが多様化
⇒空き家対策、多様なライフスタイルに対応した住環境の整備



- 共働き世帯や高齢世帯が増加する中、子育て世代包括支援センターの開設や、市立大村市民病院、中地区公民館の建替え、乗合タクシーの運行など住まい環境が向上
●現在の大村市に対する「住宅事情がよく、住環境の優れたまち」としての高い評価、将来の大村市に対する「高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち」づくりへの市民意向(P20)
⇒子育て世代や高齢者等が安心して便利に暮らせる環境づくり

将来の大村市のイメージ(市民アンケート)



中地区公民館 (R2.5開設)
○西大村出張所や、市立図書館分室、中地区ふれあい館を含む複合施設
○生涯学習の拠点、地域コミュニティの場としての役割を担う

市立大村市民病院 (H29.4開設)
○一般病棟に加え、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を有し、急性期から回復期まで切れ目のない医療サービスを提供

子育て世代包括支援センター (H31.4開設)
○妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うため、大村市子どもセンター内に開設
○これまでの子育て支援の取組に加えて妊婦への支援を強化

都市づくりの課題(見直し案)

視点④：居住環境

課題④ 住まい環境や都市施設の計画的な整備

- (1)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
(2)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり
(3)県の中心的な居住の場として、多様なライフスタイルに対応した良好な都市環境及び住環境の形成・保全、移住・定住・まちなか居住等の促進
(4)生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能の向上や地域のコミュニティの活性化
(5)道路の未整備区間・未改良区間の存在や、公園の充足率の改善など生活を支える都市施設の整備
(6)医療・福祉・子育て機能の充実など、誰もが安心して暮らせる環境づくり

- 人口や就業者数は増加傾向
●自市内就業率は低下しているが市外の就業者が本市に転入してきていることが要因と考えられ「住機能型」の性格が強まる
●「今後も現在の場所に住み続けたい」との居留意向が6割と過半数を占める(P34)
●都市計画道路が新たに1路線追加され、現在の都市計画道路は全18路線となっている
●都市計画道路、都市計画公園の整備が進展
⇒生活を支える基盤として、道路や公園等の都市施設の継続的整備を促進

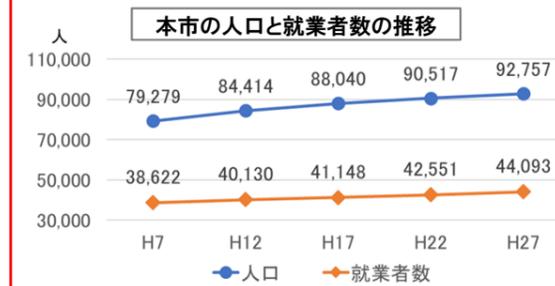
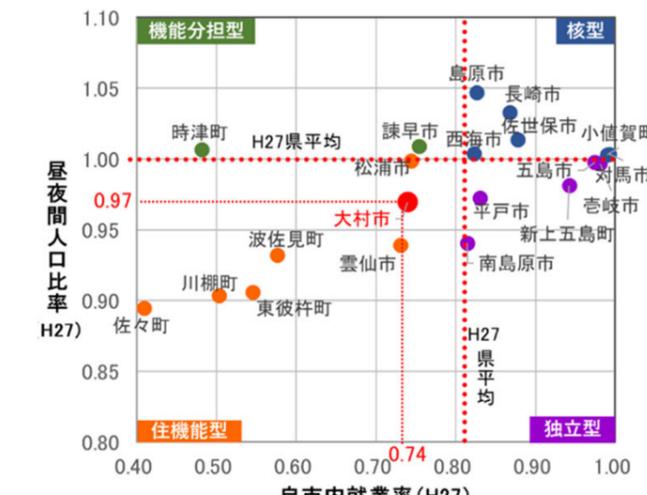
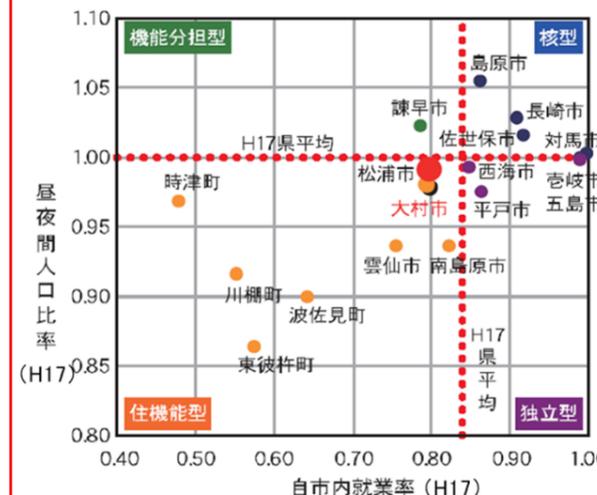


Table with 2 columns: 'Urban Planning Road Status' and 'Urban Planning Park Status'. It lists planned extensions, improvement lengths, and completion rates for roads and parks from H24.3 to R2.4.



プロセス③ 課題(小項目)の記載内容を検討

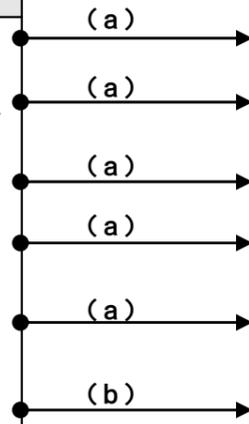
・都市を取り巻く環境の変化や課題見直しの留意点を踏まえ、課題(小項目)の内容を検討
(a)現計画を踏襲するもの (b)現計画の表現を見直すもの (c)新たに追加するもの

都市づくりの課題(組み換え後)

視点⑤：自然・歴史・文化

課題⑤ 自然環境や歴史・文化の保全・活用

- (1) 森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
- (2) 安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
- (3) 低炭素都市づくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組
- (4) 肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
- (5) 大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
- (6) 自然景観の保全など、田園環境を生かしたまちづくり



都市づくりの課題(見直し案)

視点⑤：自然・歴史・文化

課題⑤ 自然環境や歴史・文化の保全・活用

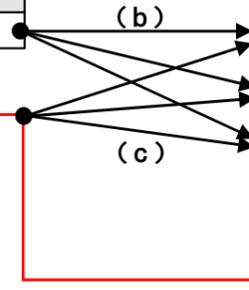
- (1) 森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
- (2) 安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
- (3) 低炭素まちづくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組
- (4) 肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
- (5) 大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
- (6) **市街地周辺部に広がる農地や里山など**、田園環境を生かしたまちづくり

視点⑥：防災・減災

課題⑥ 自然災害に対する安全性の確保

- (1) 災害に強い都市、安全・安心な都市環境の形成

- 洪水浸水想定区域の見直しに伴い、浸水想定区域や浸水深が拡大しておりハザードエリアの変化に対応した土地利用の検討が必要
- 郡川流域は、農地中心の土地利用であるが、近年、黒丸町や沖田町などで人口が増加
- 大上戸川流域には、既にまとまった住宅地が形成されており安全性への検討
- 「河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性」など自然災害への対応に対する高い関心 (P8)



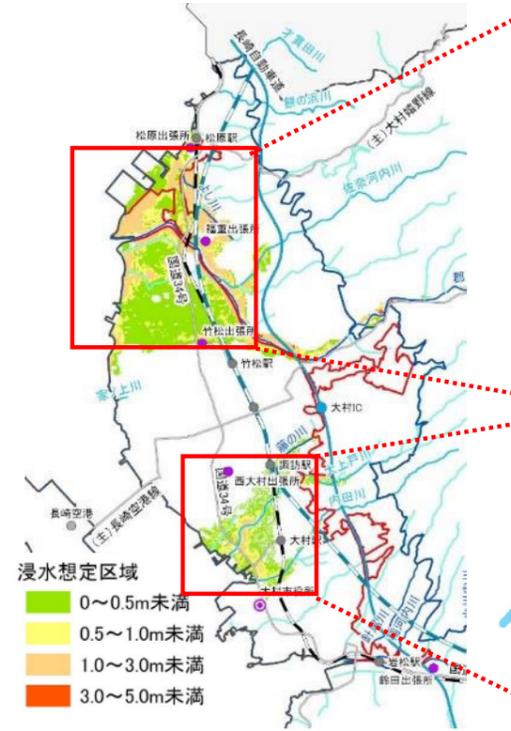
視点⑥：防災・減災

課題⑥ 自然災害に対する安全性の確保

- (1) **土木関連施設の整備・保全や流域治水等による自然災害発生抑制**
- (2) **災害リスクを踏まえた開発や立地の誘導など計画的土地利用による災害被害の回避・低減**
- (3) **避難路・避難場所や緊急輸送路等の交通ネットワークなど、災害時の迅速な救援・救助活動や復旧復興を支える基盤の強化**

⇒災害ハザードエリアを踏まえた開発抑制や移転促進、防災まちづくり(防災指針等)などの総合的な対策

■洪水浸水想定区域

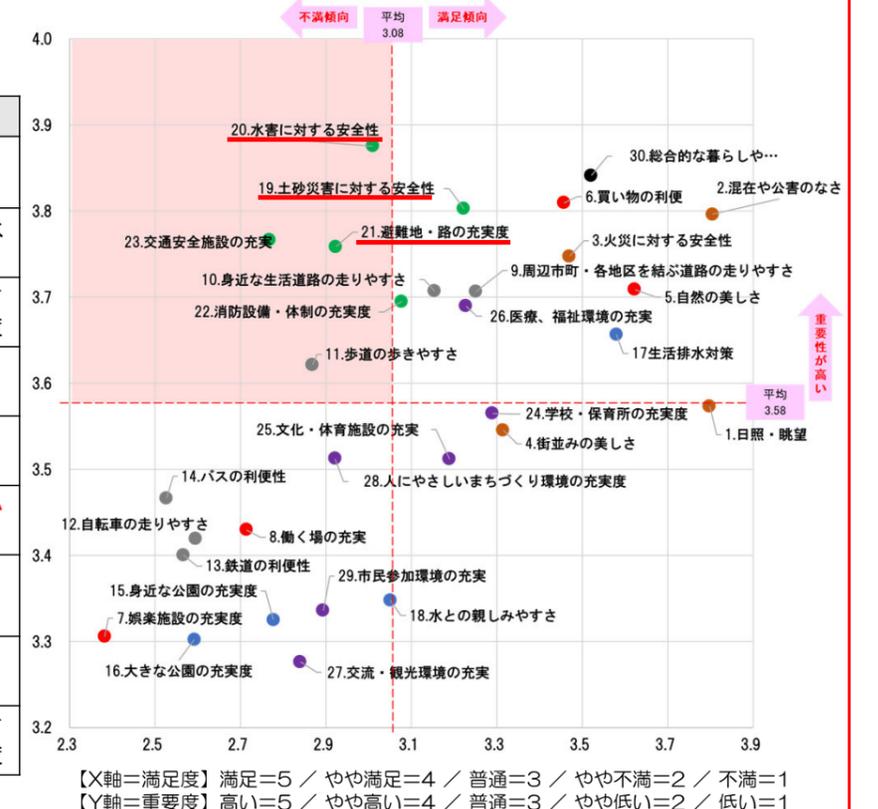


■土地利用現況(H30年)



■お住いの地区の今後の取り組みに対する重要度(市民アンケート)

	1位	2位	3位
全体	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性	総合的な暮らしやすさ	日常の買い物の利便性
松原地区	自然・緑・水辺の豊かさ、美しさ	総合的な暮らしやすさ	生活排水対策(公共下水道、浄化槽等)
福重地区	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性	総合的な暮らしやすさ	街路灯やカーブミラーなどの交通安全施設の充実度
萱瀬地区	自然・緑・水辺の豊かさ、美しさ	工場などの混在による悪臭や騒音のない快適性	密集した住宅などの火災に対する安全性
竹松地区	日常の買い物の利便性	総合的な暮らしやすさ	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性
西大村地区	日常の買い物の利便性	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性	避難場所や避難路のわかりやすさや充実度
大村地区	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性(同率1位)	総合的な暮らしやすさ(同率1位)	日常の買い物の利便性
鈴田地区	河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性	がけ崩れなど、土砂災害に対する安全性	工場などの混在による悪臭や騒音のない快適性
三浦地区	工場などの混在による悪臭や騒音のない快適性	自然・緑・水辺の豊かさ、美しさ	街路灯やカーブミラーなどの交通安全施設の充実度



審議用の資料であり、確定案ではありません。

課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
- (2)森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
- (3)安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
- (4)計画的な市街地整備の誘導を図るとともに、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
- (5)低炭素都市づくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組

課題②魅力や個性を発揮し、まちの賑わいの再生・創出

- (1)肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
- (2)大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
- (3)自然景観の保全など、田園環境を生かしたまちづくり
- (4)都市の生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能や地域のコミュニティなど、都市を支える機能の向上
- (5)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大など、多様化する都市開発に対し、地区特性を生かしたまちづくり方針の策定

課題③高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (1)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開通による充実した高速交通体系を生かした多様な産業・交流の促進
- (2)地域交流、都市間交流、国際交流を通じて、都市の付加価値の向上
- (3)地理的特性や高速交通体系の利便性を生かし、県の産業機能の中核を担う都市づくり
- (4)地区の特性を生かし、それぞれの連携を図ることによる、新たな活力の創出
- (5)行政主導の都市づくりから、地域住民をはじめNPO等新たな活動主体との協働によるまちづくりへの展開

課題④コンパクトシティの概念に基づく都市構造の再編

- (1)経済、業務、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
- (2)国や県の土地利用方針を踏まえ、コンパクトな都市づくりに向けた都市構造の再編及び計画的な土地利用の規制・誘導
- (3)少子高齢社会、高齢者に優しい都市づくりなど、都市を取り巻く社会・経済の変化に対応した、土地利用の規制・誘導や都市施設の整備
- (4)コンパクトな都市構造の再編と連携した公共交通計画の策定など、総合的な視点からの都市づくり
- (5)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
- (6)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり

課題⑤住まい環境や都市施設の計画的な整備

- (1)これまでに形成された良好な都市環境を保全し、住む場としての個性を発揮
- (2)県の中心的な居住の場として、大村市の特性である良好な住環境による定住拠点の形成
- (3)道路の未整備区間の存在や公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
- (4)災害に強い都市、安全・安心な都市環境の形成、医療・福祉機能の充実など、住まいを支える付加価値の向上
- (5)歩行者が快適に通行できる交通環境の整備、高齢者の移動手段の確保、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくりなど、人に優しい都市環境の充実
- (6)若年層の流出の抑制や都市活動を支える雇用の場の創出、安心して子どもを生み育てることのできる快適な都市づくり

視点①:土地利用**課題①海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進**

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
- (2)計画的な市街地整備の誘導と、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮した都市づくり
- (3)少子高齢化社会を見据えた、都市の利便性や活力を維持していくためのコンパクトな都市づくり
- (4)都市農地の保全と多様な機能の発揮
- (5)住宅や商業施設の開発がみられる沿岸部の工業・準工業地域における住環境・操業環境の調和

視点②:拠点整備**課題②市民生活や地域経済を支える多様な拠点の形成**

- (1)経済、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集約による都市活力の再生
- (2)工業団地を中心に、高速交通体系を生かした多様な産業の集積
- (3)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大などに対し、地区の特性を生かした多様な拠点の形成と連携
- (4)空き店舗等の活用や商業等の更なる集積などによるまちの賑わい創出
- (5)子どもから高齢者、障がい者まで全ての人々が健康で活動的に生活ができる環境づくり、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくり
- (6)新幹線開通に合わせた新大村駅と大村車両基地駅周辺の新たな拠点づくりと交流・関係人口の拡大に向けた受入環境整備

視点③:道路・交通・ネットワーク**課題③高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり**

- (1)地域住民との協働によるまちづくり
- (2)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには九州新幹線西九州ルートなどの高速交通体系を生かした地域間交流の促進及び、新幹線沿線地域との連携による広域観光周遊の促進
- (3)高速交通や、都市拠点、市街地から離れた地域や交通空白地などを含めた公共交通ネットワークを再構築し、高齢者をはじめとした交通弱者の日常生活における移動手段の確保
- (4)快適な歩行空間・交流空間の創出、まちなかの回遊性向上
- (5)自転車での移動が容易な本市の地形特性を生かしたまちづくり
- (6)市街地や大村~諫早間における交通渋滞の解消、輸送ルートの確保
- (7)Society 5.0時代の都市づくりに向けた、官民データの活用、IoTやAIなど新技術を活用した都市の課題解決

視点④:居住環境**課題④住まい環境や都市施設の計画的な整備**

- (1)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市基盤施設の統合による、効率的な都市づくり
- (2)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげる都市づくり
- (3)県の中心的な居住の場として、多様なライフスタイルに対応した良好な都市環境及び住環境の形成・保全、移住・定住・まちなか居住等の促進
- (4)生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能の向上や地域のコミュニティの活性化
- (5)道路の未整備区間・未改良区間の存在や、公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
- (6)医療・福祉・子育て機能の充実など、誰もが安心して暮らせる環境づくり

視点⑤:自然・歴史・文化**課題⑤自然環境や歴史・文化の保全・活用**

- (1)森林の水源かん養の確保、また生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
- (2)安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
- (3)低炭素まちづくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組
- (4)肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
- (5)大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
- (6)市街地周辺部に広がる農地や里山など、田園環境を生かしたまちづくり

視点⑥:防災・減災**課題⑥自然災害に対する安全性の確保**

- (1)土木関連施設の整備・保全や流域治水等による自然災害発生抑制
- (2)災害リスクを踏まえた開発や立地の誘導など計画的な土地利用による災害被害の回避・低減
- (3)避難路・避難場所や緊急輸送路等の交通ネットワークなど、災害時の迅速な救援・救助活動や復旧復興を支える基盤の強化